

■ 農作物の生育状況と今後の対策等（7月）

令和8年7月16日
青森県三八農林水産事務所
農業普及振興室

I 土地利用型作物

1 水稻

（1）生育の状況

① まっしぐら

6月30日時点の管内の生育は、平年に比べ草丈・茎数はやや下回り、葉数は並であった。県生育観測ほの幼穂形成期は、八戸市市川が平年より1日早い7月11日、五戸町根前は2日早い7月8日であった。

② はれわたり

6月30日時点の管内の生育は、前年に比べ草丈は大幅に下回り、茎数はやや多く、葉数はやや下回った。はれわたり指導拠点ほ（南部町苦米地）の幼穂形成期は前年より5日遅い7月10日であった。

③ イネドロオイムシの発生について

低温・降雨を好むため、5月下旬～6月に曇雨天が多い年は越冬世代成虫の寿命が長く、産卵数が多くなり、幼虫の死亡も少ないので多発する。（晴天が続く年は発生が少ない。）

表1 水稻生育観測ほ生育状況（6月30日）

品種	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	m ² 茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	幼穂形成期 (月日)
まっしぐら (8地点平均)	本年	48.9	19.9	399	8.9	7月8日
	平年	51.5	21.1	440	8.9	7月10日
はれわたり (4地点平均)	本年	49.5	18.0	387	8.5	7月9日
	前年	63.3	17.2	353	9.0	7月4日

※はれわたりは調査年数が少ないため平年値なし

（2）今後の対策・指導等

- ①最低気温が17℃以下になると予想される場合には、深水管理を徹底する。
- ②出穂後に気温が高い日が続く場合は、飽水管理や水の入れ換えを行う。
- ③稲こうじ病、いもち病等の適期防除を徹底する。カメムシ対策として出穂7日前までに水田周囲の草刈りを終える。
- ④農作業履歴を記帳する。

2 大豆

(1) 生育の状況

7月10日の生育は、平年に比べ八戸市市川の草丈は大幅に低く、葉数は大幅に少なかった。五戸町倉石中市は、は種が平年より24日遅かったため出芽前であった。

表2 大豆生育観測ほ生育状況（7月10日）

調査地点	年次	播種日 (月日)	草丈 (cm)	葉数 (葉)
八戸市 市川	本年	6月4日	25.4	3.5
	平年※	5月30日	33.8	4.6
五戸町 倉石中市	本年	7月4日	—	—
	平年※	6月10日	32.0	4.0

※平年値は平成25年～令和7年の平均値

(2) 今後の対策・指導等

- ①湿害により生育不良となることから、明きょ等の排水対策を徹底する。
- ②適期に雑草及び病虫害防除を行う。
- ③中耕・培土を適期に行う。

Ⅱ 野菜

1 ながいも

(1) 生育の状況

萌芽揃いは平年より 7 日遅い 6 月 20 日、つるのネット頂上への到達は、7 月 10 日現在で未到達（平年 7 月 8 日）であった。

地下部の生育は、いも長は 15.0cm（平年比 94%）、いも重が 7.8g（同 107%）、いも径が 7.9mm（同 101%）とおおむね平年並となっている。

病害の発生は見られなかった。害虫は、ナガイモコガの食害が散見される。

表 3 ながいも生育観測ほ生育状況（7 月 10 日）

年 度	定 植 期					つるの ネット頂 到達日	7 月 10 日現在 (本年調査日:7月 10日)			
	植付 期 (月日)	種いも の種類	萌 芽				欠株 率 (%)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)
			始	期	揃					
			め	期	い					
本 年 (平年比)	5/8 遅1日	ガンク欠	6/15 遅7日	6/18 遅7日	6/20 遅7日	0		15.0 94%	7.8 107%	7.9 101%
平 年	5/7	ガンク欠	6/8	6/11	6/13	0	7/8	16.0	7.3	7.8
前 年	5/14	ガンク欠	6/18	6/20	6/23	0	7/10	14.3	6.6	9.1

※栽植様式：畝幅 120cm、株間 22cm（3,787 株/10a）

※種子の系統：庄司、使用種子の種類・重さ：2 年子・120～150g

※平年値は平成 28 年 ～ 令和 7 年の平均値

(2) 今後の対策・指導等

- ①近年、降雨が多い状況が続いているので、排水対策を徹底する。
- ②1 回目の追肥時期を迎えているので、遅れないよう追肥を実施する。
- ③アブラムシ類、ナガイモコガ、葉渋病、炭疽病の発生に注意し、予防防除に努める。

2 ねぎ

(1) 生育の状況

草丈は 97.1cm（平年比 99%）、茎径は 22.4mm（平年比 102%）といずれも平年並となっている。収穫時期は平年並と見込まれる（平年 7 月 14 日）。

病害は、べと病、さび病、葉枯病が見られる。虫害はアザミウマ類、ハモグリバエ類の食害が散見される。

表4 ねぎ生育観測ほ生育状況（7月10日）

年 度	定 植 期					7月10日現在 (本年調査日：7月10日)	
	品 種 名	は種期 (月日)	育苗 状況	定植期 (月日)	活着 状況	草丈 (cm)	茎径 (mm)
本 年 (平年比)	はやぶさ7	12/4 早15日	良	3/16 早9日	良	97.1 99%	22.4 102%
平 年	夏扇パワー	12/19	—	3/25	—	98.3	21.9
前 年	夏扇パワー	1/5	良	4/1	良	94.9	22.3

※平年値は平成28年～令和7年の平均値

(2) 今後の対策・指導等

- ①近年、夏場の集中豪雨が増加傾向にあるので、排水対策を徹底する。
- ②収穫予定日を考慮し最終培土を実施する。また、培土はなるべく高温の時間帯を避け、早朝に実施する。
- ③収穫前日数を確認し、さび病、べと病、ネギコガ、アザミウマ類、ハモグリバエ類等の病虫害防除を徹底する。

3 にんにく

(1) 生育の状況

県生育観測ほの収穫期は、平年より5日早い6月17日で、茎葉重は79.4g（平年比88%）、球重83.2g（平年比84%）で平年を下回り、球径は63.4cm（平年比98%）と並であった。

表5 にんにく生育観測ほ収穫期調査結果（6月17日）

年次	収穫時期 (月日)	茎葉重 (g)	球径 (mm)	生球重 (g)
本年 (平年比)	6月17日 (5日早)	79.4 (88%)	63.4 (98%)	83.2 (84%)
平年	6月22日	90.4	64.5	98.9
前年	6月23日	98.5	65.1	101.8

※種子の系統：「白玉王」、種子りん片重量：10～12g

※栽植様式：うね幅 160cm、株間 15cm（16,667株/10a）、黒マルチ（植付機使用）

※平年値は平成28年～令和7年の平均値（但し、黒マルチを使用した令和2年を除く）

(2) 今後の対策・指導等

- ①乾燥時の温度、送風量を適切に管理するとともに、乾燥施設の給気口と排気口を乾燥終了まで常時開放して、煮えやムレ等による品質低下に注意する。また、乾燥の仕上がりは盤茎部の水分や重量の減量率などを確認しな

から判断し、過乾燥にならないように注意する。

②乾燥終了後は、種子用と出荷用と離して、直射日光が当たらず風通しの良い涼しい場所で保管する。

4 トマト

(1) 生育の状況

生育観測ほの生育は、5段花房の開花が6月30日で、平年より2日早く、現在6～7段目が開花中である。

収穫は平年より3日早い7月6日から始まっており、1～3段花房でチャック果が、3段花房で尻腐れ果が散見される。

灰色かび病の発生がわずかにみられるほかは、目立った病虫害の発生はみられない。

一般ほ場の生育は概ね順調である。病虫害は、灰色かび病が散見されるほか、一部でトマトキバガの発生がみられるが果実への被害はみられない。

表6 トマト生育観測ほ生育状況（7月10日）

年 度	定 植 時			着 果 状 況					
	品 種 名	定植期 (月日)	育苗・ 活着 状況	1 段花房		3 段花房		5 段花房	
				開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)
本 年	りんか409	5/9	良好	5/26	4.3	6/14	3.5	6/30	－
(平年比)	(自根)	2日早		0日	102%	1日早	105%	2日早	－
平 年	りんか409	5/11		5/26	4.2	6/15	3.3	7/2	2.5
前 年	りんか409	5/12	良好	5/29	3.8	6/15	3.2	6/27	2.6

※栽植様式：畦幅 200cm、株間 40cm、条間 70cm、2条（1,960株/10a）、黒マルチ

※平年値は平成28年～令和7年の10か年の平均値

(2) 今後の対策・指導等

①着果数は、草勢に合わせて1花房あたり3～4果程度に調整し、生育・天候に応じたかん水・追肥を行って、草勢の低下を防ぐ。

②高温対策として、日中の暑い時間帯は遮光資材でハウスを覆い、好天が続く予報の場合には屋根部に塗布剤を処理する。

③病虫害の発生に留意し、初期防除に努める。

Ⅲ 農作業事故防止

作業は複数人で行うようにする。1人で作業する時は、事前に家族等に所在を知らせておき、農業機械の操作を行う際は、周囲の安全確認や、ヘルメット着用などの事故予防対策に留意する。また、思わぬトラブルが発生した場合には、まずエンジンを停止させる。

Ⅳ 農作業中の熱中症対策の更なる徹底

農作業中の熱中症による死亡事故の8割以上が7月から8月に集中しており、熱中症リスクの高い時期であることから、①こまめに水分をとる、②こまめに休憩をとる、③暑い時には無理をしないなど注意する。

Ⅴ 農薬の適正使用

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農薬は、周辺作物に飛散しないよう適正に使用し、使用後は、栽培日誌、GAPチェックリストに忘れずに記帳し、出荷前の確認を徹底する。